

みらいの北区ダンボールタウンプロジェクト 結果報告書

1. プロジェクトの目的

北区は令和 6 年 2 月に区制 80 周年を迎えることから、その先の 100 周年を見据え北区のまちの未来について多くの方々に関心を持ってもらうことを目指し、この企画を立ち上げました。

学校、公園、商店、病院など私たちのまちは様々な施設や機能で構成されており、それらは地域の方々によって支えられています。住民一人ひとりが地域に愛着を持つことは、まちを住みやすくし、その魅力を高めていく大きな原動力になります。なかでも児童・学生たちは未来のまちを支える主役であり、まちづくりを支える大事な担い手です。学生の頃から自分の暮らすまちに関心をもち議論を重ねながら知見を深める機会を持つことは、まちを支える人材を創出する第一歩になると考えております。この企画では、学生たちが主体的に北区のまちの魅力や機能を学び考え年下の世代に伝える取組みを通して、自分たちが社会の一員であるという意識を高めながら将来のまちづくりに主体的に関わってもらえることを期待するものです。

2. プロジェクトの概要

高校・大学生で構成する参画者には、北区内に設定した 3 つの検討地区に分かれ現地調査や企画検討会議を重ねながら未来のまちの設計図である「未来図」を完成してもらいます。最終日に開催するワークショップでは運営進行も自ら主体的に担いながら「未来図」のエッセンスと SDGs の考え方を参加者である小中学生にパワーポイントで分かりやすく紹介するとともに、子供たちがダンボールを用いて未来のまちを自由な発想で創り上げるサポートをするものです。

3. 参画者 52 名（ワークショップ参加者 48 名）

- ・名城大学 13 名（都市情報学部など）
- ・椋山女学園大学 13 名（現代ビジネス学部 10 名、生活科学部 3 名）
- ・名古屋造形大学 11 名（情報表現領域 10 名、イラストレーションデザインコース 1 名）
- ・愛知学院大学 3 名
- ・市立北高等学校 12 名（美術部 9 名、OB OG：名古屋学芸大学 2 名、名古屋芸術大学 1 名）

4. ご協力いただいた高校・大学関係者、協力企業

- ・名城大学 都市情報学部 宮本 由紀 教授
- ・名古屋造形大学 情報表現領域 江津 匡士 准教授
- ・市立北高等学校 美術部顧問 林田 健 教諭
- ・(株)三恵社、(株)リクラス、(株)大醐、(株)白木、(株)オプコ、(株)白洋舎 水草営業所、(株)日新、(有)サンライズ

5. 企画検討会議

- (1) 第1回企画検討会議 (1月30日：北区役所内 会議室)
 - ・ 北区の現状、地域社会の課題、SDGs、各地区の特徴・歴史、事前調査について
 - ・ 30年先の理想の街（各地区）について
- (2) 現地調査 (1月31日～2月19日)
 - ・ 大曽根地区 (大曽根駅周辺、大曽根商店街、六郷学区)
 - ・ 北区役所地区 (柳原商店街、名城学区、清水学区)
 - ・ 楠地区 (楠学区、味簀学区、西味簀学区)
- (3) 第2回企画検討会議 (2月20日：北区役所内 会議室)
 - ・ 各地区の調査分析結果
 - ・ 30年先の理想のまち（各地区）の検討結果
- (4) 第3回企画検討会議 (3月13日：北区役所内 会議室)
 - ・ ワークショップでの発表資料（パワーポイント）のまとめ
 - ・ ワークショップに向けたダンボールでの造作準備、プレゼン準備
- (5) 直前準備 (3月14～26日)
 - ・ ワークショップに向けての準備
 - ・ シンボルタワーのパーツ制作
- (6) ワークショップ (3月27日 10時～16時30分：北区役所 講堂)
 - ・ オープニング（楠地区・北区役所地区のリーダー）、各地区の説明
 - ・ ダンボールタウンの制作
 - ・ 各地区の作品発表、江津准教授・林田教諭による講評、シンボルタワーの発表、区長講評、クロージング（大曽根地区のリーダー、高校生代表）、記念撮影

※参加者 36名（中学生12名、小学生24名）

学校内訳（楠中、志賀中、八王子中、楠西小、如意小、味簀小、名北小、光城小、大杉小、金城小、川中小、城北小、飯田小、楠小、辻小）

6. 次回に向けた課題と対策

- ・ スケジュールの見直し → 企画検討会議の開催数 6回（4回＋現地調査＋振り返り）
- ・ 参画者間の認識のばらつき → 事前説明会の開催（作業工程の確認、成果レベルの共有など）
- ・ 広報活動の充実 → テレビ局や地元誌などマスコミへの拡散
- ・ 大学生・高校生の負担軽減 → 企画検討会議へ参加する際の交通費の一部補助
- ・ 企画検討会議のレベル向上 → 地域課題やまちづくりに深く関われるレベルへの底上げ

<今後のプロジェクトのあり方>

	高校生・大学生	小中学生	地域（現地調査）	区役所
企画検討会議	議論やアウトプットを前提とした調査・分析・研究活動、地域交流活動		若者との交流機会 地域活性化 地域の魅力発信	北区の魅力発掘 の愛着の醸成
ワークショップ (各地区の説明)	小中学生への社会教育活動 地域への新しい視点での提案	地域学習		地域の魅力発信 広報効果
ワークショップ (制作)	小中学生に向けた教育交流活動、コミュニケーションの機会	創造体験 異世代交流		子育て支援 まちづくり
活動報告	地域行政への参加経験		意見交流の機会	地域交流



アンケート集計結果（小中学生本人）

（回答数：18）

プロジェクトを知った方法 （複数回答）	学校で配布されたチラシ	95%	17/18
	広報なごや	5%	1/18
	学校の先生の薦め	5%	1/18
参加動機 （複数回答）	工作が得意、又は好きだから	56%	10/18
	楽しそうだったから	44%	8/18
	家の人に参加を薦められたから	44%	8/18
	年上のお姉さんお兄さんと話をしてみたかったから	22%	4/18
	みんなで大きなものを作りたかったから	17%	3/18
	まちづくりや地域の課題について関心があったから	5%	1/18
	社会の勉強の参考になると思ったから	5%	1/18
	学校の先生に参加を薦められたから	5%	1/18
	友達に誘われたから	5%	1/18
参加前に行ったこと （複数回答）	ダンボールで作りたいものを自分で考えてみた	56%	10/18
	自分の家の周辺について調べてみた	11%	2/18
ワークショップの時間	ちょうど良かった	50%	9/18
	短かった※	33%	6/18
	（土曜と日曜の2日間が必要）	11%	2/18
	（5時間） プラス1時間	11%	2/18
	（4.5時間） プラス30分	5%	1/18
	長かった	17%	3/18
まちの説明の分かりやすさ	普通	44%	8/18
	分かりやすかった	33%	6/18
	難しかった	17%	3/18
ダンボール制作の満足度	楽しかった	89%	16/18
	普通	11%	2/18
現地調査の参加意向	参加したい	61%	11/18
	参加したくない	39%	7/18
大学生・高校生の対応	とても良かった	83%	15/18
	良かった	17%	3/18
次回の参加希望	参加してみたい	82%	14/17
	参加はしないと思う	12%	2/17
	自分は参加しないけど、友達などにすすめたい	6%	1/17